

さくらんぼおばさん 空をとぶ

エルンスト=エッカー作
飯豊道男訳



943 Ekker, Ernst A.
(NDC)

さくらんぼおばさん空をとぶ

エルンスト = エッカー 著 飯豊道男 訳

学習研究社

138p 図 23cm (新しい世界の童話シリーズ)

原題 : DIE KIRSCHENFRAU GEHT

IN DIE LUFT

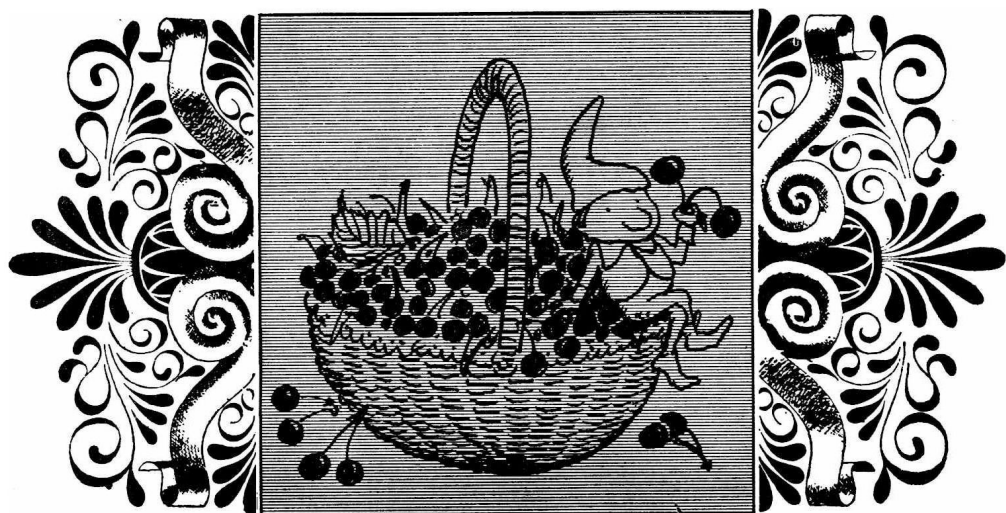
し、らんぼおばさん空をとぶ

エルンスト=エッカー作

飯豊道男訳

むかい ながまさ画

DIE KIRSCHENFRAU GEHT IN DIE LUFT





さくらんぼおばさん空をとぶ もくじ

8 さくらんぼのすきな魔女^{まじよ}

15 人間^{にんげん}のおばあさんになりたい

21 SL^{エスエル}にのつてでかける

25 ペーターのことを^{おも}思うと、なみだが……

34 ねむりの精^{せい}の力^{ちから}をかりても、ねむれない

37 魔女^{まじよ}が、ペーターの絵^えをかく

41 回転木馬^{かいてんもくば}で大^{おお}はしやぎ



- 63 カラスのフーゴー、魔女に一目おく
まじよ いちもく
- 66 ペーターが、かぜをひいた！
- 84 魔女が、香水工場ではたらく
まじよ こうすい こうじょう
- 100 香水工場は、大さわぎ
こうすい こうじょう おお
- 110 人間のおばあさんになれる！
にんげん
- 114 ペーターとあそぶ！
- 118 空をとんで、警部につかまる
そら けいぶ
- 131 おかしなこともあるもんだ

DIE KIRSCHENFRAU GEHT IN DIE LUFT

by Ernst A. Ekker

Copyright © 1966 by Verlag für Jugend und Volk

Japanese translation rights arranged with Verlag
für Jugend und Volk, Wien through Tuttle-Mori
Agency Inc., Tokyo

●訳者のご紹介

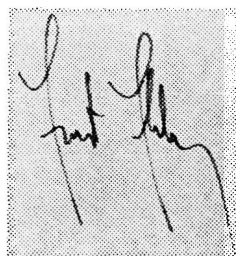
この本を訳された飯豊道男先生は、1928年に名古屋市に生まれ、中央大学大学院独文科を卒業、ドイツ語圏の口承文芸研究のかたわら、ドイツ・オーストリアの児童文学の紹介にもつくされておられます。中央大学教授。

主な訳書に、『オーストリアの昔話』『世界の民話・東欧編』『小さくなった先生』などがあります。

日本の小さいお友だちへ



日本にっぽんの小さいお友ともだちへ



いま、あなたがひらいた本ほんは、あなたをヨーロッパに、オートリアに、ウィー
ンにごあんないします。

といつても、道みちばたにさくらんぼの木きがのび、家庭菜園かていさいえんや、くすんだアパート、
工場こうじょうが見える、へいぼんな町まちはずれのジンマリングがお話はなしのぶたいです。それで
もわたしはここがすきです。学生時代がくせいじだいから十年ねんいじよう以上もここにすんでいました。

お話はなしの主人公しゅじんこうは、魔女まじよのジンマリングです。ないしよでおおしえますが、わ
たしは一度どだけ、魔女まじよにあつたことがあるのです。きりのこい、十一月がふの朝あさの四
時じごろのことでした。わたしは、市しの中心部ちゅうしんぶからジンマリングまで、長い道ながみちをあ
るいてきました。パーティーのかえり、タクシー代だいがなかったのです。

ジンマリングにはいると、とつぜん、むこうからおばあさんがやってきました。ところが、近ちかずくと、その人ひとがわかい女おんなの人ひとみたいに見えるのです。左ひだりかたにネコをのせていました。そのネコが、カラスみたいになくのです。ネコのくせに！その人ひとがわたしに、いま人間にんげんになりかけているところだ、といいました。人間にんげんになるのはたいへんなことだって！「でも、わたしはあきらめないよ。あきらめるもんか！」と、その人ひとはつぶやきました。

かたにいたネコが、カー、カー、となぎました。それからカラスが、ニャーンとなぎました。カラスなんかいもしないのに！ちかっています、わたしはそのとき、お酒さけによってなんかいませんでした。

その人ひとはそれから、ふっと、きりの中なかにきえました。

お話はなしには、ペーターぼうやという男おとこの子こもでできます。両親りやうしんがはたらいいて、ぼうやはいつもさみしそうです。

え？ ペーターぼうやにもあったか、ですって？ ええ、あいましたとも。な

人にもあいました。あそび友だちがいない子、話しあいてがいない子に。

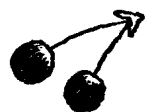
わたしはジンマリングで数年、親のない子の施設ではたらいっていたのです。そういう子の力になろうとしたのです。

ところで、この施設から遠くないところに、石けんや洗ざいをつくる工場がありました。夏のあつい日など、風につてすごいにおいがながれてきて、気持ちわるくなりました。でもそれは、一、三年まえに、とりこわされました。ここもお話にとりいれました。ただ、あまりかなしい話にすくなかったので、香をつくる、たのしい工場にしました。けれども、よくお読みになれば、それがたのしいとばかりいえないことは、わかっていただけでしょう。

では、これから、わたしのすきなジンマリングの人たちと、しりあいになってください。

一九八一年九月　ウィーンで

エルンスト・エツカー



さくらんぼのすきな魔女^{まじよ}

すこしまえ、ジンマリングに、ひとりの魔女^{まじよ}がいました。いまでも、まだそこにすんでいるかもしれません。もうはつきりしている人^{ひと}はいませんが。

魔女^{まじよ}の名^なまえもはつきりしません。ただ、魔女^{まじよ}は自分^{じぶん}では、その警察署^{けいさつしょ}のシーナール警部^{けいぶ}に、ジンマリングだ、と名^なのついていたそうです。

魔女^{まじよ}はウィーンのはずれの、ジンマリング・ハイデというあれ地^ちの中^{なか}の、かわいらしい、小さい家^{いえ}にくらしていました。そこは、家庭菜園^{かていさいえん}にかこまれています。

家庭菜園^{かていさいえん}には、キノコとか、スグリとか、四^よつ葉^はのクローバー、ワサビがそだっていました。それに小人^{こびと}もいて、土^{つち}の中^{なか}から顔^{かお}をのぞかせました。

ここには、木が二本ありました。魔女のジンマリングは、この木のことでは、わかいころ、というと、二、三百年まえのことですが、しょっちゅう、かんかんにおこっていました。

もちろん、このお話のころには、魔女もおとなになって、おちついてきていました。もう、むかしのように、むきにならなくなりました。むきにならないどころか、二本の木の前にでても、のんきに、大口あけてわらっていられるようになりました。

このうちの一本は、そうとう大きい木で、いつも、いやにいばっていました。えだが長くて黒いのですが、この木はそのえだで、魔女がねるへやのまどや、屋根を、ばさ、ばさ、とたたくのがすきでした。そうやって、魔女がひるねをしていられないようにするのです。

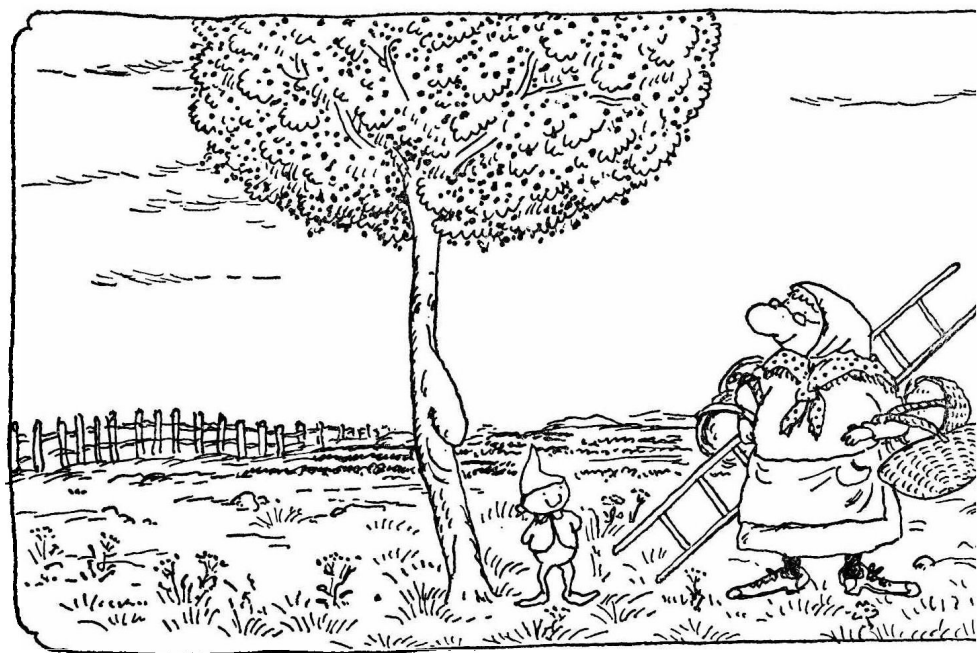
この木には、大きくて赤黒い、あまいさくらんぼがなりました。ただし、木に、その気があるときにしかなりません。



もう一本の木は、もつとほっそりして、えだはもつと明るく、女の子みたいに、むやみやたらに、くすくすわらう木でした。この木には、ふつう、明るい色のさくらんぼがなん千個となりました。それは小さくて、すっぱいさくらんぼでした。

ところが、この二本の木は、気まぐれをおこすと、ぱっと、おたがいのさくらんぼをこうかんしてしまうのです！

それには、わけがありました。



二本の木は、魔女がすっぱいさくらんぼが大すきなのを、しつていたのです。どうして魔女がすっぱいさくらんぼをすきかという、いつだったか、どこかで、すっぱいさくらんぼを食べると美人になるって、魔法の本で読んだからです。それに、魔女はもともとみえつぱりです！

魔女がすっぱいさくらんぼの木に、古いおんぼろのはしごをかけて、えだを見あげると、すっぱいさくらんぼは、いつでも、さあど

うぞというように、きらきらかがやきました。それを見ただけで、口によだれがたまってきて、魔女は思わずリスみたいに、すばやく、はしごをかけのぼってきます。ところが、いざさくらんぼをつもうとすると、そこになっているのは、魔女の大きらいな、あのいまましい、あまいさくらんぼなのでした！

魔女だつて、ときにはあまいさくらんぼを、かごいっぱいにつむことがあります。それは、人間のところにかけてときです。魔女はどうしても、人間のなままりがしたかったのです。いたずらすぎな二本の木は、それもちゃんとしていました。

ですから、魔女おばさんが人間に、おいしい物が好きな人に、いちばん水気があつて、いちばん大きいさくらんぼをもつていつてやろうと、黒っぱいさくらんぼの木のかずえにあがっていると、かごにつんだあまいさくらんぼが、きゆうにぜんぶ、小さい、すっぱいさくらんぼばかりにかわつてゐるなんていうことも、しよつちゆうでした。

二本の木は、いたずらがうまくいくと、いつもからだをゆすつてわらいました。ジンマリンガー・ハイデには、ウィーンから、おおぜいハイキングの人がきますが、その人たちは、遠くから、家庭菜園の二本の木が、ちっとも風がないのにぎいぎいうごいているのを見ると、ぞっとして、とりはだがたちました。

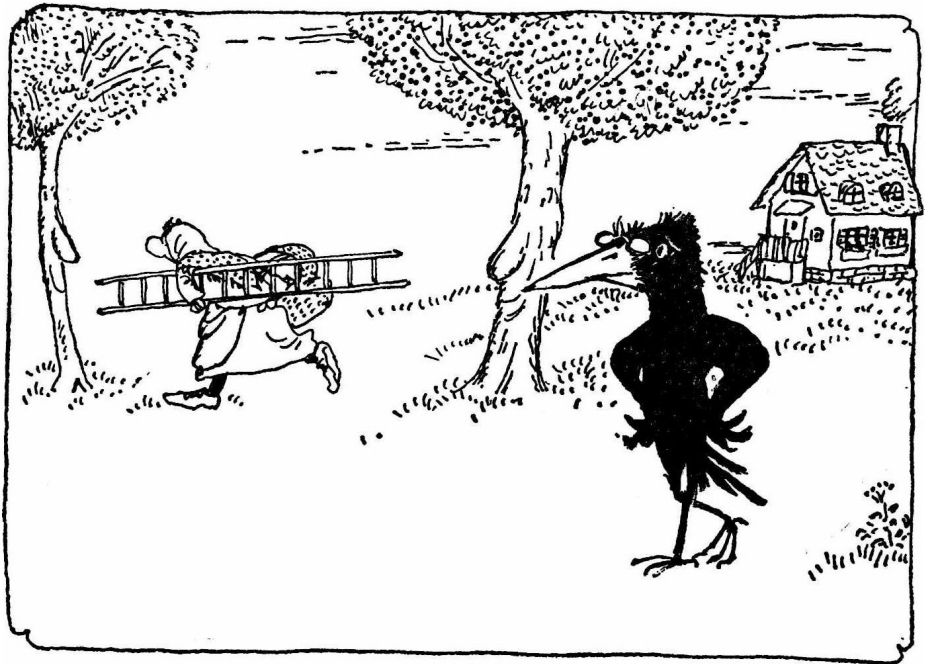
こんなことをする魔法の木に、魔女のジンマリングが、ときには、しつpegえしをしないようじゃ、魔女の名がなきます。

あるときのことです。魔女が、すっぱいさくらんぼの木のとっぺんにあがつていたのに、すっぱいさくらんぼが見えません。すると、おどろいたことに、魔女はいきなり、もう一本の木にとびうつるという、はなれわざを試してみました。そしたら、思っていたとおりでした！いきなりとびうつられた、あまいさくらんぼの古い木は、めんくらって、魔女のかごに、魔女の大すきな、すっぱいさくらんぼをおとしてしまったのです！

こんなことがあつてからというもの、魔女おばさんは、さくらんぼをつむのが、

たのしくなりました。

ただ、魔女^{まじょ}のあいぼうの、りこ
うなカラスのフーゴーは、魔女^{まじょ}が
こんないい年^{とし}をして、わからずや
の魔法^{まほう}の木^きとはりあうのを見て、
まったくこまったもんだ、とくび
をふりました。魔女^{まじょ}が、いったい
どうして、はしご、はしごなんて
さわぐんだろう、とそれがふしぎ
でした。そんなものもちださな
くても、魔女^{まじょ}のジンマリングは、
さっさと木^きにのぼっていけるので
す！



でもフリーゴーは、魔女がみえつぱりだということを、わすれていました。

ほんとうは魔女は、魔法で、金のだんだんをつくりだしたくてならなかったのです。それなのに、それをためらったのは、もしそんなことをしたら、たちまちりこうなカラスのフリーゴーに、ふん、とわられるのが、わかっていたからです。



人間のおばあさんになりたい

この魔女のジンマリングのゆめは、ほんもののおばあさんになることでした。人間のまごがいる、かつこいい、おばあさんになることでした。

「ねえ、フリーゴー、おまえさんはちえがあつて、頭がいいけど。」と、魔女が、カラスのフリーゴーに話しかけました。

カラスはとくいそうに、羽をさかだてて、があがあ声でいいました。